

キャリア教育コーディネーターの役割とは？

「キャリア教育コーディネーターネットワーク協議会」では、キャリア教育コーディネーターの基本的役割と効果のあるキャリア教育プログラムの要件等を以下のように整理しています。「キャリア教育」に本格的に取り組んでみたいと考えている学校関係者の皆さんの参考にしていただくと幸いです。

キャリア教育コーディネーターの基本機能

- **キャリア教育に必要な地域資源の発掘とネットワークの構築・維持**
キャリア教育を推進していくために必要な地域資源を発掘し、持続的に協力してくれるためのネットワークを構築し、維持していく。
- **学校や地域・企業等のニーズを踏まえたキャリア教育に関するプログラムの開発支援**
学校のニーズや、地域・協力する企業等のニーズを踏まえた、バランスのとれたキャリア教育のプログラムを開発支援する。
- **プロジェクト運営管理、連絡・調整**
キャリア教育プログラムの実現を一つのプロジェクトと考え、プロジェクトをスムーズに実行するための運営管理、連絡・調整業務を行う。

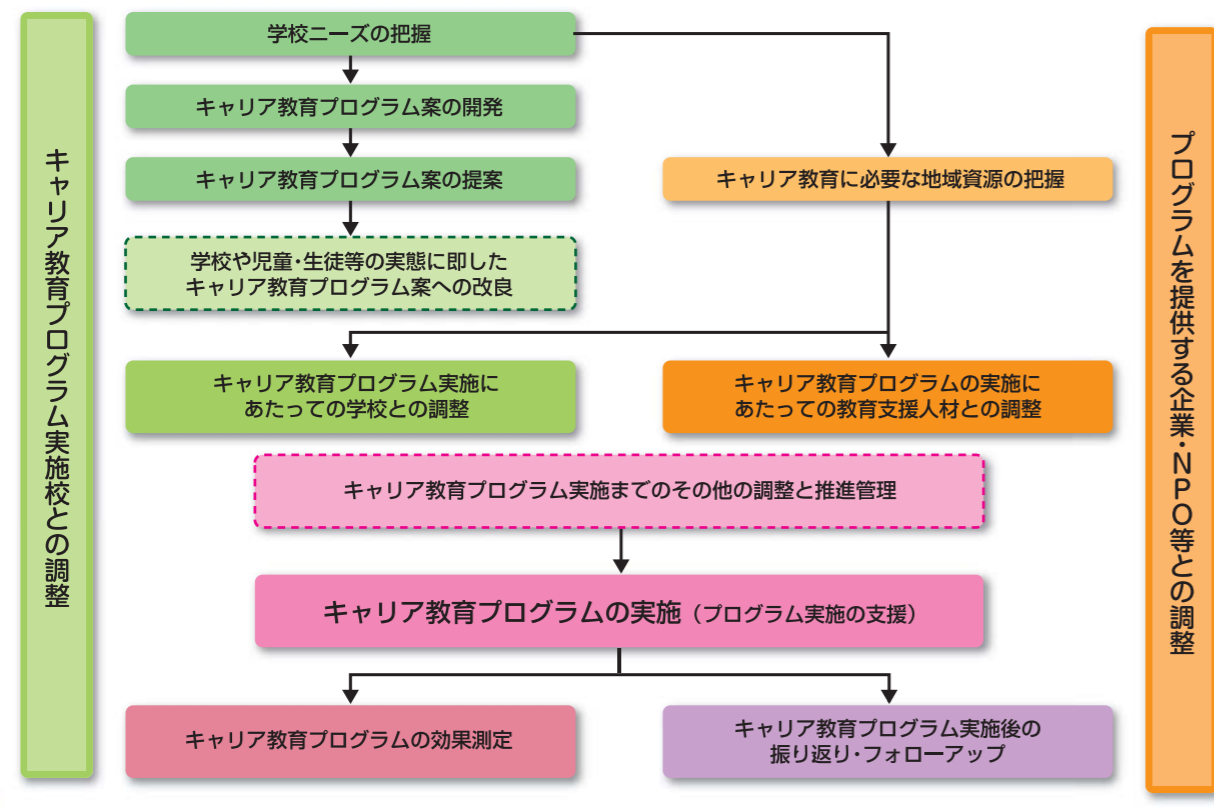
効果のあるキャリア教育プログラムの要件

- 学習目標を達成するための体系的な学びがある
- 地域や企業など外部の教育資源が活用されている
- 体験を充実させる事前・事後学習がある
- 持続可能なプログラムである
- 子供たちの発達段階にあったプログラムとなっている
- 職場体験・インターンシップを効果的に使う

キャリア教育のコーディネート事例

- ① 実際の職場で仕事を体験するプログラム
- ② 企業の活動や経済の仕組みについて学ぶプログラム
- ③ 経済活動の最前線で活躍している社会人を招き、仕事や人生の醍醐味を学ぶプログラム
- ④ 教科で教えている内容と社会・職業とのつながりを学ぶプログラム
- ⑤ インタビューを行い、情報媒体を作成して発表するプログラム
- ⑥ 与えられた課題に対して企画を立案し、発表するプログラム

キャリア教育プロジェクトの流れ



出典：キャリア教育コーディネーター育成研修公式テキストより

一般社団法人 キャリア教育コーディネーターネットワーク協議会

問合せ先 〒167-0043 東京都杉並区上荻二丁目24番21号協立第51ビル 3階
電話 03-3392-1988 ホームページ <http://www.human-edu.jp/> E-Mail career@sanet.jp

※キャリア教育コーディネーターネットワーク協議会は、経済産業省が平成20～22年度にかけて実施した「キャリア教育民間コーディネーター育成・評価システム開発事業」に参加した15団体によって結成された全国ネットワーク組織。「キャリア教育コーディネーター認定制度」やキャリア教育推進事業等に取り組んでいる。

「今後の学校におけるキャリア教育・職業教育の在り方について」概要

(中央教育審議会 平成23年1月31日答申)

キャリア教育・職業教育の課題と基本的方向性

1. 若者の現状…大きな困難に直面

産業構造や就業構造の変化、職業に関する教育に対する社会の認識、子ども・若者の変化等、**社会全体を通じた構造的な問題が存在。**

- **「学校から社会・職業への移行」が円滑に行われていない。**
 - ・ 完全失業率 約9%
 - ・ 非正規雇用率 約32%
 - ・ 無業者 約63万人
 - ・ 早期離職 高卒4割 大卒3割 短大等卒4割
- **「社会的・職業的自立」に向けて様々な課題が見られる。**
 - ・ コミュニケーション能力等職業人としての基本的能力の低下
 - ・ 職業意識・職業観の未熟さ
 - ・ 進路意識・目的意識が希薄な進学者の増加

若者個人のみでの問題ではなく、社会を構成する各界が互いに役割を認識し、一体となり対応することが必要。

その中で、**学校教育は、重要な役割を果たすものであり、キャリア教育・職業教育を充実していかなければならない。**

2. キャリア教育・職業教育の基本的方向性

キャリア教育

- 一人一人の社会的・職業的自立に向け、必要な基盤となる能力や態度を育てることを通して、キャリア(注1)発達を促す教育
- **幼児期の教育から高等教育まで、発達段階に応じた体系的に実施**
 - **様々な教育活動を通じ、基本的・汎用的能力(注2)を中心に育成**

職業教育

- 一定又は特定の職業に従事するために必要な知識、技能、能力や態度を育てる教育
- **実践的な職業教育を充実**
 - **職業教育の意義を再評価することが必要**

生涯学習の観点に立ったキャリア形成支援

生涯にわたる社会人・職業人としてのキャリア形成(社会・職業への移行した後の学習者や、中途退学者・無業者等)を支援する機能を充実することが必要

家庭、地域、社会へ企業、経済団体、職能団体、NPO等と連携
各界が各々役割を発揮し、一体となった取組が重要

(注1)キャリア：人が、生涯の中で様々な役割を果たす過程で、自らの役割の価値や自分と役割との関係を見いだしていく連なりや積み重ね
(注2)基本的・汎用的能力：①人間関係形成・社会形成能力 ②自己理解・自己管理能力 ③課題対応能力 ④キャリアプランニング能力

発達の段階に応じた体系的なキャリア教育

1. 基本的な考え方と充実方策

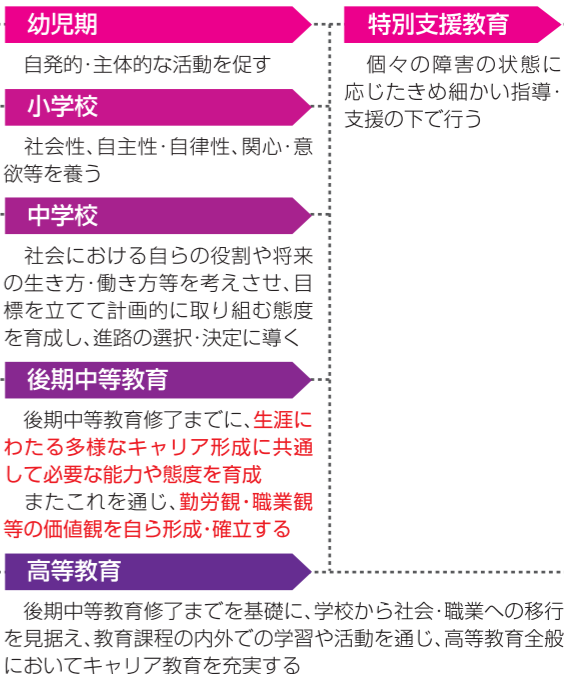
(1) 基本的な考え方

- ① **社会的・職業的自立に向けて必要な基盤となる能力・態度を育成する、幼児期の教育から高等教育までの体系的な取組**
- ② **子ども・若者一人一人の発達状況の的確な把握ときめ細かな支援**
- ③ **能力や態度の育成を通じた勤労観・職業観等の価値観の自己形成・自己確立**

(2) 充実方策

- ① 教育方針の明確化と教育課程への位置付け
- ② 重視すべき教育内容・教育方法と評価・改善
 - ・ 多様で幅広い他者との人間関係形成等のための場や機会の設定
 - ・ 経済・社会の仕組みや労働者としての権利・義務等についての理解の促進
 - ・ 体験的な学習活動の効果的な活用
 - ・ キャリア教育における学習状況の振り返りと、教育活動の評価・改善の実施
- ③ 教職員の意識・指導力向上と実施体制の整備

2. 各学校段階の推進の主なポイント



出典：文部科学省「今後の学校におけるキャリア教育の在り方について」(答申)(平成23年1月31日) http://www.mext.go.jp/b_menu/shingi/chukyo/chukyo0/toushin/1301877.htm